

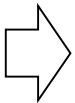
当面の病床機能転換等

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 眼科松本クリニック | 5. オリオン |
| 2. 西和歌山病院 | 6. 半羽胃腸病院 |
| 3. 綿貫整形外科 | 7. 中江病院 |
| 4. 綿貫第二クリニック | 8. 和歌浦中央病院 |

【様式】病床機能の転換・病床数の変更等について

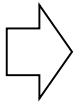
医療機関名 眼科松本クリニック

現在の病床機能【概要】 <令和8年 6月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期	1	休床中	5	0.0%
回復期				
慢性期				
計	1	—	5	—
(備考)				



今後の病床機能 <令和 8年 10月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期				
急性期	1	休床中	0	
回復期				
慢性期				
介護医療院				
計	1	—	0	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
急性期病床5床を全て廃止				

現在の病床機能【詳細】
当院は急性期病床5床を有する有床診療所ですが、近年は眼科医療、特に網膜硝子体疾患に対する日帰り手術が診療の中心となっております。医療技術の進歩や手術機器の発達により、多くの手術が日帰りで安全に実施可能となったことから入院需要が減少し、現在は5床全てを休床しています。



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
当院における白内障手術は全例日帰り手術で実施しており、患者の入院を必要とする症例は認めておりません。また、今後の眼科手術についても、医療技術の進歩や手術の低侵襲化により、入院を要する術式の実施予定はありません。このため、現在有する5床の病床については、その必要性がなくなったものと判断し、全床（5床）を削減し、日帰りで手術を実施いたします。

【様式】病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名

西和歌山病院

現在の病床機能【概要】				
<令和8年7月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期				
回復期	1	地域一般入院料3	60	83.3
慢性期	1	療養病棟入院料1	60	78.3
計	2	—	120	—
(備考)				



今後の病床機能				
<令和9年1月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期				
急性期				
回復期	1	地域一般入院料3	57	
慢性期	1	療養病棟入院料1	56	
介護医療院				
計	2	—	113	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
回復期病床60床のうち3床を廃止				
慢性期病床60床のうち4床を廃止				

現在の病床機能【詳細】
当院は現在、内科、整形外科、人工透析内科を中心に一般病床60床、療養病床60床を有しており、回復期病床につきましては、急性期病院からのリハビリ治療目的等の入院、慢性期病床につきましては高齢者等の長期治療が必要な患者様の受け入れを行っております。 当院建物は築45年となり、旧法による病室の面積基準のままでベッド間隔もかなり狭く、入院患者様の快適な療養環境を考えると、満床稼働が難しい状況です。



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
病床数変更（回復期3床、慢性期4床減）後の病床機能に変更は御座いません。 病床数の削減により、今後入院患者様の療養環境が少しでも安全で快適になるよう又治療と看護についても作業効率が良くなる事を期待するものであります。 今後もより一層、地域に貢献すべく内科、整形外科を中心とした医療と看護の充実を図ることが、地域医療における当院の役割と考えます。

【様式】病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名

綿貫整形外科

現在の病床機能【概要】				
<令和 8年 7月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期	1	有床診療所入院基本料1	19	52.3%
回復期				
慢性期				
計	1	—	19	—
(備考)				



今後の病床機能				
<令和 8年 12月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期				
急性期	1	有床診療所入院基本料1	15	
回復期				
慢性期				
介護医療院				
計	1	—	15	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
急性期病床 19 床のうち 4 床を廃止				

現在の病床機能【詳細】
当院は19床を有する有床診療所であり、地域住民に対する外来診療及び入院医療を提供してきましたが、近年の病床利用状況、地域の医療需要の変化及び在宅医療ニーズの増加も踏まえ、病床数を19床から15床へ適正化いたします。



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
減少後も有床診療所としての機能を維持し、在宅医療の患者の急変時受け入れ、レスパイト入院に対応するとともに、外来診療及び在宅医療機能の充実を図っていきます。

【様式】病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名

綿貫第二クリニック

現在の病床機能【概要】				
<令和 8 年 7 月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期	1	有床診療所入院基本料2	14	10.0%
回復期				
慢性期				
計	1	—	14	—
(備考)				



今後の病床機能				
<令和 8 年 12 月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期				
急性期	1	有床診療所入院基本料2	2	
回復期				
慢性期				
介護医療院				
計	1	—	2	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
急性期病床14床のうち12床を廃止				

現在の病床機能【詳細】
当院は14床を有する有床診療所ですが、地域における入院需要の変化および在宅・介護サービス需要の増加を踏まえ病床機能を適正化します。



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
入院機能を最小限にしながら併設の通所リハビリテーション（デイケア）の強化や急変時の対応及び介護予防を推進し医療と介護が一体となった地域包括ケアの推進を図っていきます。

【様式】病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名

医療法人 裕紫会 オリオン

現在の病床機能【概要】 <令和 8年 7月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期				
回復期				
慢性期			19	0.0%
計	0	—	19	—
(備考)				



今後の病床機能 <令和 8年 10月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期				
急性期				
回復期				
慢性期			0	
介護医療院				
計	0	—	0	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
慢性期病床19床を削減				

現在の病床機能【詳細】
当院は慢性期19床の有床診療所であり、主として透析患者の災害、感染拡大等の緊急時対応を目的として病床を確保しているため、平時は非稼働病床が多い状況です。



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
和歌山県が推進する地域医療構想に沿って、非稼働病床を削減したいと考えています。今後は無床診療所として、透析を主体とした外来診療を継続する予定としております。

【様式】病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名

半羽胃腸病院

現在の病床機能【概要】				
<令和 8年 6月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期				
回復期				
慢性期	1	療養病棟入院基本料 1	51	
計	1	—	51	—
(備考)				



今後の病床機能				
<令和 8年10月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期				
急性期				
回復期				
慢性期	1	療養病棟入院基本料 1	46	
介護医療院				
計	1	—	46	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
慢性期病床51床のうち5床を廃止				

現在の病床機能【詳細】
当院は慢性期病床51床を有する病院ですが、入院患者の減少や職員の高齢化と職員確保の困難により、51床の病床の維持が難しい状況です。



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
病床数の削減を行うことにより、安定した職員の人員配置を行い、患者に充実した療養を提供します。また、病床削減後に片側居室への改築計画を立て、高齢者や身体障害者が円滑に利用できるよう進めていきます。

【様式】病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名

医療法人愛晋会 中江病院

現在の病床機能【概要】				
<令和8年7月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期	1	急性期一般入院基本料5	41	67.8%
回復期	1	急性期一般入院基本料5	44	79.6%
回復期	1	地域包括ケア病棟入院料1	49	87.2%
回復期	1	回復期リハビリテーション病棟入院料2	58	89.5%
慢性期				
計	4	—	192	—
(備考)				



今後の病床機能				
<令和9年3月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期				
急性期	1	急性期一般入院基本料5、地域包括ケア入院医療管理料1	41	
回復期	1	急性期一般入院基本料5、地域包括ケア入院医療管理料1	38	
回復期	1	地域包括ケア病棟入院料1	49	
回復期	1	回復期リハビリテーション病棟入院料2	58	
慢性期				
介護医療院				
計	4	—	186	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
回復期機能：急性期一般入院基本料5の44床のうち6床を廃止。				
急性期機能：急性期一般入院基本料5の41床のうち4床を地域包括ケア入院医療管理料1に変更。				
回復期機能：急性期一般入院基本料5の38床のうち12床を地域包括ケア入院医療管理料1に変更。				

現在の病床機能【詳細】
当院は急性期一般入院料85床、地域包括ケア病棟入院料49床、回復期リハビリテーション病棟入院料58床を有する病院です。救急告示病院としての救急患者の受け入れや整形外科手術の対応など急性期機能の役割と専門的なリハビリテーションの実施や大病院からの在宅復帰に向けた患者の受け皿として回復期機能の役割を担っております。しかし、近年の診療報酬改定で急性期病床の施設基準が年々厳しくなっており、その中で当院の届出入院料と地域の医療需要に若干のずれが生じているため、効率的な入院受け入れが困難となってきています。特に急性期一般入院料85床への入院患者の受け入れが厳しい状況にあります。



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
効率的な入院受け入れを図るため、急性期一般入院基本料85床のうち6床を削減し、残った79床のうち16床を地域包括ケア入院医療管理料の病床として運用します。今後需要が増えると想定される高齢者救急への対応を含め、今後も救急告示病院としての救急患者の受け入れや整形外科手術の対応など急性期機能の役割、早期在宅復帰を目指した治療と専門性を生かしたリハビリテーション等にも引き続き対応していきます。

【様式】病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名 医療法人曙会 和歌浦中央病院

現在の病床機能【概要】 <令和8年6月現在>				
機能区分	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期	1	急性期一般入院料 6	50	79.2%
回復期	1	地域包括ケア入院医療管理料 1	30	88.3%
慢性期		療養病床入院料 1	24	93.5%
慢性期	1	障害者施設等入院基本料 10対1	58	85.1%
計	3		162	—
(備考)				



今後の病床機能 <令和9年3月以降>				
機能区分	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
高度急性期				
急性期	1	急性期一般入院料 6	50	
回復期	1	地域包括ケア入院医療管理料 1	30	
慢性期		療養病床入院料 1	20	
慢性期	1	障害者施設等入院基本料 10対1	50	(定員)
計	3	—	150	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
慢性期病床である療養病床を24床から20床に削減、また、同じく慢性期病床の障害者施設等入院基本料58床から50床に削減し、総病床数を162床から150床とする。				

現在の病床機能【詳細】					
【入院患者の現状】		(人・日)			
入院延患者数	1 病床	令和5年度	令和6年度	令和7年度	R8.4～6の実績
	2 病床	13,445	14,088	14,300	3,451
	3 病床	17,225	17,423	17,822	4,454
	計	16,479	16,642	16,749	4,105
1 病床（急性期）の平均在院日数		47,149	48,153	48,871	12,010
		17.3	17.3	17.0	17.1
※ 入院患者数は年々増加傾向にある。この要因は、和歌山医大・日赤医療センターの下り患者を積極的に受入れていること、及び下段の救急患者の現状のとおり院内上げて救急患者を積極的に受け入れる体制に改めたためである。特に令和7年4月より和歌山市消防局の救命救急士1名を採用したことも増加の要因と考えている。					
【救急患者の現状：法人資料より】		(人)			
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	R8.4～6の実績
救急患者数		856	984	998	342
うち救急車搬送数		542	562	657	159
うち入院数		215	234	265	66
※ 現在の当院の常勤医師数は13名で、日当直医の体制は、55歳以上の医師2名、女性医5名、小児科医1名の日当直免除を行っており、平成29年度までは1名の勤務医のみ当直勤務（他の日当直は大学の応援医）を行っていたが、平成30年4月に1名、平成31年4月に1名、の計2名の常勤医（法人役員）が着任し、また、令和2年4月、令和8年4月に常勤医師が採用となり、常勤医師による当直が増加したことが、救急患者数の増加に繋がった主な要因である。					
【慢性期の現状】		障害者施設等入院基本料 10対1 を算定する病床の稼働率及び障害者率は、以下のとおりである。			
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	R8.4～6の実績
稼働率		81.3%	82.3%	84.1%	84.4%
障害者率		100.9%	100.3%	96.3%	91.8%
療養病床入院料 1 を算定する病床の稼働率及び医療度は、以下のとおりである。なお、令和元年7月より在宅復帰強化加算の認可を得ており、退院患者の在宅復帰に努めている。					
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	R8.4～6の実績
稼働率		85.9%	87.7%	87.5%	90.8%
医療度		92.5%	93.1%	91.8%	90.7%



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方	
【慢性期から回復期への機能転換】	
本院では本館2号棟の耐震工事を予定しており、これに合わせて病院全体のリニューアルも検討していること、及び和歌山医療圏における人口減少並びに少子高齢化を視野に慢性期病床を12床削減することにした。なお、今後とも急性期を経過した患者（ポストアキュート）や、在宅・介護施設等からの患者であっても症状の急性増悪した患者（サブアキュート）の受入を積極的に推進し、更なる受入体制の充実を図ることとしています。	
【急性期機能のあり方】	
医師の日当直体制の充実に伴って救急患者数が大幅に増加しており、中等症以上の救急搬送件数については、令和8年度については年間700件を超える予定である。 また、平成9年度においても1名の常勤医が赴任する予定であり、更なる救急医療に寄与できるよう取り組むこととしている。	